

## 長女・次女が、総本山へ修行に参ります

この不動心を皆様が手にする頃には、私の娘たち（大学 4 年・2 年）は総本山（神奈川県藤沢市）で修行をしていると思います。長女は 4 月から就職、次女はコロナ禍で予定していた留学がキャンセルになった时期的合間をぬって、また「食」に関して精進はもちろんのこと年齢的に 40 代以降になると気力・体力的にその完遂が難しい修行内容のため、この時期に満を持して修行に出しました。日程的には 2 月 28 日～3 月 10 日までで、『伝戒加行』という隔年でお勤めされる約二週間の修行です。

ちなみに昨今は女性が住職を継ぐことも珍しくなくなりましたが、今回娘たちを修行に出したのは当寺院の場合は娘二人に後を継がせると決断した訳でなく、今後当寺院がどのような状況になったとしても様々な選択肢を残しておくための措置です。

【註：僧侶になるためには、この加行と『在堪（通常 1 年間、総本山に籠る奉仕行）』という修行があり、その二つの修行を完遂しないと僧侶の資格を得ることはできません。】



（上写真：平成 18 年 3 月・伝戒加行終了時の記念写真です。上から二段目左から三番目が私です。）

ですので長女も次女も一旦は社会に出てもらい、将来私が住職を引退する時、次の住職として相応しい人間になっていた者に上記の『在堪』という総本山での 1 年間の修行に再度出てもらい、次期住職に指名しようと考えています。もちろん、来春から中学生になる息子も同様にしようと考えています。まだまだ先の話かもしれませんが、常に不測の事態に備えておかないとどうなるかを当寺院は実体験していますので、娘たちにとっては楽しいはずの春休み期間だったとは思いますが、お寺の人間の務めだと理解してもらいました。但し、世の中は「コロナ禍」です。この加行という修行も 20 数名の人間が一つのお堂に 10 日間以上籠りますので、開始前に PCR 検査を受けなければなりません（当然、時宗約 750 年の歴史の中で初めてのこと）。そしてそこで陽性になると、修行に入ることができません。今はただ、親として師僧として、陰性であることを祈るばかりの毎日です。

## 時宗 遊行第 74 代真円上人が遷化されました。



時宗開祖一遍上人から数えて74番目の遊行上人であつた、真円上人が昨年12月9日に遷化（高僧がお亡くなりになること）されました。（世寿103歳）平成17年度の1年間、私が時宗総本山清浄光寺（通称：遊行寺）で在堪修行をした際にはいつもお声がけしてもらえただけでなく、平成25年に兵庫教区に遊行された「ご親教」では、当寺院において踊り念仏の大導師をお勤めいただき、檀信徒一同のご先祖様をお供養して下さいました（左写真）。私にとっては師僧に次ぐ大恩人であり、生涯忘れることのできないお方ですが、皆様と同じくコロナ禍の中で出席者を限定する密葬（愛知県岡崎市）とな

り、その御恩を直接偲ぶことはできませんでした。しかしあらためて本年9月に総本山で本葬儀が執り行われますので、必ずお参りさせていただこうと思っています。

なお次期遊行上人には第75代一浄上人がすでに着任され、その晋山（総本山住職に着任すること）は現在の所、前上人本葬儀と同日に行われる予定になっています。ここに時宗の法灯が無事相続されましたことを、合わせてご報告させていただきます。

〔編集後記〕 初めて「緊急事態宣言」という言葉を聞いてから、丸二年が過ぎようとしています。あれから本当に様々なことが変化しました。お寺のことに關しても、葬儀の人数制限や法事のオンライン化、マスク着用での読経もそうですし、何よりもオンラインの影響で私が総本山に行く回数が激減しました。しかしいつまでもそのオンライン動画でのやりとりを続けるわけにはいかないことは、それを体験した方々に共通する認識ではないでしょうか。やはり人間は直接会って、五感で感じながら会話をしないと本当の自分の気持ちを相手に伝えることはできません。葬儀や法事も、本来そんな五感で感じるものだと、このコロナ禍の時代になってあらためて認識させられました。ただそんな「直接会える」という時代が戻ってくることを願わずにはおれませんが、社会がコロナ禍以前と全く同じ状況に戻ることは不可能です。なぜなら、コロナ禍はそれが急激であったのでその変化に気づいただけで、私たちの社会はこれまでも少しずつですが常に変化し続けてきたのです（諸行無常）。このコロナ禍が収まるよう願うのは当たり前ですが、来るべき新しい時代に自分自身の心身が適応できるよう、この春彼岸から精進致しましょう。 合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyojin.com/>



普照院

検索



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をにやう、若い方々・お子様たちに教えてあげて下さい。

